

志村義雄* ミゾシダモドキの分布

Yoshio Shimura : On the Distribution of *Lastrea omeiensis*
(Bak.) Copeland in Japan.

日本におけるミゾシダモドキの初採集は1909年、児玉親輔氏により伊豆・浄蓮滝でなされ、1914年同地産のものにつき *Dryopteris izuensis* Kodama と命名され、初発表が行われた。1928年の緒方正資著日本羊歯類図集第1巻・図版23のミゾシダモドキは伊豆・浄蓮滝のものが使用されている。以後、同地のものは多数の人々により採集され、また報告もされている。

これと前後して九州にも発見され、次第に本州にも点々とその自生地が判明した。

いずれにしても伊豆はミゾシダモドキに最も縁が深い。以後、静岡県には各地にこのシダの産地が知られ、その産量も亦おそらく全国一と思われるにいたつた。

筆者は偶然にも伊豆・韭山村で生まれ、静岡県に在住しているので、浅学を省みず、日本におけるこのシダの分布をまとめて報告しておく。

中国、台湾に分布する暖地性の *Lastrea omeiensis* Copel. (ミゾシダモドキ) は現在のところ、日本においては次の如く知られている。

九州地方 鹿児島県出水市大川内および紫尾山(種谷)(薩摩)〔田川基二; 植物分類地理 7: 49~54 (1938)——新敏夫; 鹿児島県文化財調査報告第5号 (1958)〕

鹿児島県出水市湯川内、大口市荒川内(薩摩)〔倉田悟; 日本シダの会々報 No. 45 (1960)〕

宮崎県南那珂郡北郷村猪八重(日向)〔鹿児島大学農学部腊葉庫所蔵(初島住彦氏書簡)〕

宮崎県西都市三納、観音川(日向)〔滝一郎; 日本シダの会々報 No. 17:73 (1955)〕

熊本県水俣市湯出、葛渡(肥後)〔静岡大学教育学部腊葉庫所蔵(城戸正幸氏採1959)〕

中国地方 鳥取県鳥取市久松山(因幡)、東伯郡東伯町大杉、西伯郡大山町大山(伯耆)〔生駒義博・川本満喜夫; 北陸の植物 6: 99 (1957)〕

近畿地方 三重県尾鷲市魚飛、南谷(紀伊)〔樹海 No. 8, 尾鷲地方の羊歯: 7 (1956)〕
三重県尾鷲市賀田(紀伊)〔倉田悟氏書簡〕

中部地方 静岡県**田方郡上狩野村浄蓮滝(伊豆)〔久内清孝; 植物研究雑誌 Vol. 2: No. 2 (1918)——緒方正資; 日本羊歯類図集 1: 23 (1928)——田川基二; 植物分類地理 Vol. 7: 49~54 (1938)——伊藤洋; 大日本植物誌 4: 149 (1939)〕

静岡県加茂郡仁科村白川(伊豆)〔杉本順一; 静岡県産羊歯植物目録 (1953)〕

* 静岡大学教育学部生物学教室

** 静岡県各地産のミゾシダモドキの標本は全部静岡大学教育学部腊葉庫に所蔵してある。

- 静岡県加茂郡河津町上河津（伊豆）〔佐竹健三；日本シダの会々報 No. 28 : 153(1957)〕
 静岡県静岡市産女（駿河）〔大村敏朗；静岡市西部植物誌（1940）〕
 静岡県静岡市大原（駿河）〔志村義雄；静岡大学教育学部研究報告 8 (1957)〕
 静岡県静岡市大鏡（駿河）（上野明氏1958採）
 静岡県清水市梅ヶ谷（駿河）〔大村敏朗；日本シダの会々報 No. 14 : 60 (1955)〕
 静岡県安倍郡大河内村横山（駿河） 齊木保久；日本シダの会々報 No. 14 : 60 (1955)〕
 静岡県小笠郡城東村入山瀬および掛川市岩井寺（遠江）〔志村義雄；静岡大学教育学部研究報告 7 (1956)〕

関東地方 千葉県清澄山（安房）〔大井次三郎；日本植物誌シダ篇（1957）——千葉県生物学会；千葉県植物誌（1958）〕

これら自生地のうち、鳥取県は鳥取大学教育学部生駒義博氏からの書簡によれば、三自生地は何れも N. 35° 25' ~ 31' にそれぞれ位置し、個体数は僅少の趣である。日本海側に自生することは、分布上注目すべきことであり、この地方は日本におけるミゾシダモドキの北限自生地である。また千葉県・清澄山はこのシダの東北限自生地になる。

分布範囲内と思われる四国地方には、このシダの自生は未だ知られていないようである。

このシダの生育地は一般に、林下の滝の周辺または水のしたたるような陰湿地である。ミゾシダモドキは日本産シダ植物のうち、次の諸点で珍しい種類に属している。第1は産地が少なく、産量も亦多くないと思われ、いわゆる稀少価値がある。第2は九州の一部、本州の一部、台湾および中国大陸に自生し、植物分布上隔離分布をしている。第3は分類学的にも議論のあるものらしい。

終に資料をいただいた各位に対して深謝の意を表する。

Lastrea omeiensis (Bak.) Copel. Gen. Fil. 139 (1947); Ohwi, Fl. Jap. Pterid. 100 (1957); Tagawa. Col. Ill. Jap. Pterid. 110 (1959). *Polypodium omeiensis* Bak. Journal Bot. 1888. 229. *Thelypteris omeiensis* (Bak.) Ching, Bull. Fan 6 : 282 (1936). *Leptogramma omeiensis* (Bak.) Tagawa, Journ. Jap. Bot. 12 : 748 (1936). *Cyclogramma omeiensis* (Bak.) Tagawa, Acta. Phytotax. Geobot. 7 : 53 (1933). *Dryopteris izuensis* Kodama in Matsumura &c. Pl. Koisikav. 2 : 7 Pl. 88 (1914). *Glaphyopteris omeiensis* (Bak.) H. Ito, Pol-Dry. 1 : 149 (1939).

Distr. China : Szechuan, Kweichow; Formosa: Taityū; Kyūsyū (Prov. Satsuma, Hyūga and Higo) and Honsyū (Prov. Inaba, Hōki, Kii, Tōtōmi, Suruga, Izu and Awa).

At present, Mt. Hisamatu in Tottori city is the northermost habitat of this fern. Especially, Shizuoka Prefecture (Tōtōmi, Suruga, Izu) has comparatively numerous habitats of this fern.